

発行:(公財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166-0011 東京都杉並区梅里 1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

4年目の被災地。もう一度、「忘れてはいけない」と、心に刻みましよう 私たちは「被災地に音楽を」送ります

3・11から3年が過ぎました。

そして日本フィル「被災地に音楽を」の活動は、4月3日から4年目に入りました。

昨年11月に訪れた陸前高田市の中学校で、先生が子供たちの状況を「怒りの3年目」と表現しました。被災時小学生だった子どもたちは、下校したのちに津波に襲われ目の前で「水」を見た経験を持ち、多くの子どもが家族を失い、8割近くが仮設住宅から学校に通っていました。仮設の学校に入学し、仮設の学校を卒業した子どももいました。親のストレスが子供に伝わり、どの子もPTSDの兆候を抱えていました。

福島では、除染がすすみ地表の表情が変わっても、「戻りたい」「戻らない」「判断がつかない」という心の葛藤が、多くの人々の間に見えないバールをまとって、うす巻いているように見えます。ふるさととは「土地」でなく「人」というシンプルなこたえで、地元や避難先でネットワークづくりに頑張っている人たちもいます。

今、被災地の方々の心を闇に陥れているのは、「忘れられた」「自分の居場所がない」という、喪失感だと思います。この3年間、私たちは「音楽」が人と人、人と場所を結びつける重要なコミュニケーション・ツールだということを改めて実感しています。

今一度、なぜ「被災地に音楽を」送るのか、もう一度、私たちは繰り返します。

- ① 被災された方たちに「みなさんのことを忘れていない」ことを伝え、激励すること。
- ② 私たちが、訪問して演奏して見たこと感じたこと、まだ圧倒的に多数の方々が収容所のような仮設住宅で生活されていることを、被災地以外の人々に伝えること。
- ③ 演奏家自身が、「音楽に何ができるか」を自らに問いながら「忘れてはいけない」と心に刻むこと。



2013年3月、宮城県石巻にて。公演後に楽団員は津波が押し寄せたエリアへ。

春休み恒例の南相馬は3回目。3つの中学校に吹奏楽指導に行きました



原町第三中学校 (4月3日)

二日目は石神中学校です。部員数21名。学校は耐震工事中で仮設の校舎で学んでいる生徒もいるとのことでした。どの学校も新学期の準備で忙しいそうです。午前中だけのクリニックで終了しました。

4月3日～5日まで福島県南相馬市の3つの中学校に、吹奏楽のクリニックに行きました。メンバーはフルート鈴木章浩(賛助)、クラリネット楠木慶、ホルン伊藤恒男、トランペット橋本洋、トロンボーン岸良開城、ユーフォニウム黒沢ひろみ(賛助)、打楽器遠藤功のみなさんです。

1日目は南相馬市原町三中。生徒数は震災前の2/3、部員は6人でした。1対1の贅沢な指導です。1月に入団したばかりのクラリネットの楠木慶君は被災地デビューです。午後からは、入学式のためのマーチのリハーサルをしました。指揮の先生は養護教諭で、恐縮しっぱなし。職員室の先生総出でエールを送りました。



石神中学校 (4月4日 写真上下)



「エールをおくろう、力をもらおう」杉並区の荻窪音楽祭が南相馬

原町第一中学校との共演コンサートを11月に企画

南相馬3日目は原町第一中学校。もともと吹奏楽の歴史のある学校でしたが、震災後、部員は半分減ってしまいました。顧問の阿部先生の熱い指導のもと、昨年、全日本吹奏楽コンクール全国大会で銅賞を獲得し、アンサンブルコンテストではクラリネット7重奏で金賞を受賞しました。全国大会の様子はNHKなどでも放映され、地域のみなさんを励ましました。そんな原町第一中の午前中の個別指導にも力が入ります。新学期が始まる前に、新入生も獲得し入学式前の新1年生も加わり真剣そのものでした。



原町第一中学校 (4月5日)